

令和5年度 長崎市環境調査報告書：昆虫類

長崎市自然環境調査員 田 中 清

はじめに

昨年度に神浦一帯（神浦11町）を調査し、報告書をまとめました。しかし、調査地域の一部であったながさき県民の森（以下県民の森という）については、閉園時間や敷地面積の広さなどの面から、十分な調査ができませんでした。

そこで、今回は県民の森だけを取り上げて、1年間調査しました。

1 調査期間及び方法

(1) 期間

2023年1月～12月の1年（毎月2～3回の調査）です。

(2) 方法

下記の7つを実施しました。

- ①見つけ取り ②スイーピング法 ③叩き網法 ④エンジンブロア（吸引採集）
⑤石起こし ⑥灯火採集 ⑦PT法（フィットホールトラップ）

2 調査結果

特定種、外来種、南方系の種及び偶産種に絞ってお知らせします。

(1) 特定種

長崎市および長崎県、環境省のレッドデータリストに記載されている種です。ゴキブリ目1種類、蜻蛉目7種、半翅目2種、鞘翅目15種、鱗翅目5種の合計30種を確認しました。昨年調査した神浦一帯で23種でしたので、県民森にはより多くの貴重な種が生息していることが分かりました。

次にいくつかの種を示しておきます（図1～16）。



図1 ムカシトンボ



図2 ベニイトトンボ



図3 ヒメアカネ



図4 オオアメンボ



図5 ゲンジボタル



図6 ハイケボタル



図7 シロスジカミキリ



図8 オオヒョウタンキマワリ



図9 ナガサキトゲヒサゴ
ゴミムシダマシ



図10 ヤマトタマムシ



図11 ウスイロキシタバ



図12 ダイミョウセセリ



図13 コツバメ



図14 スミナガシ



図16 メスグロヒョウモン

(2) 外来種

人間の活動に伴って外国や他県から侵入し、長崎でも見られるようになった種です。長崎市および長崎県の外来種リスト8種を確認しました。確認数が少ない種もありましたが、県民の森にも外来種が多くいることが分かりました。次にいくつかの種を示しておきます（図17～22）。



図17 タイワンクツワムシ



図18 アオマツムシ



図19 アワダチソウゲンバイ



図20 キマダラカメムシ



図21 ハスジオオキノコ



図22 ラミーカミキリ

(3) 南方系の種及び偶産種

今回は6種を確認しました。代表的な2種を示しておきます(図23~24)。一方、西彼半島で多くの記録がある迷蝶などは、まったく確認できませんでした。しかし、県民の森より高度が低い赤水公園や神浦川の下流や海岸付近では、カバマダラやアオタテハモドキを確認しました。



図23 ハネビロトンボ

3 考察

県民の森は車が通行できる部分のごく一部で、敷地の大部分は車の進入が禁止されており、徒歩による移動しかできません。内部にある川、溜池、照葉樹林などの自然環境が、他の地域より守られて残存しているようです。例えば、今回の調査で同時に確認された両生類の特定種をあげても、ブチサンショウウオなど7種であり、貴重な動物が生息する環境があることが分かります。



図24 ルリウラナミシジ

昆虫では、昨年の神浦一帯で1,300種以上(深川ほか2016、田中2023)としていましたが、今回の調査を含めると2000種以上の確認となりました。今回は1年だけの調査であり、今後さらに調査を重ねると、種数はもっと増えるでしょう。

ただ、林内にはイノシシが多く、調査中に遭遇することもあります。また、沢や溜池などにはブユやマムシも多いので、注意が必要です。

謝辞

本調査あたっては、長崎市環境政策課、長崎県林政課、ながさき県民の森事務所の方々に調査の承諾と協力を賜りました。また、合同で調査をした深川元太郎氏、カメムシ類の採集や同定にご協力いただいた安永智秀博士、採集用具の利用と採集に協力をいただいた長崎西高等学校の長嶋哲也氏と生物部のみなさんにこの場を借りて、心よりお礼と感謝を申し上げます。

参考文献

深川元太郎・今坂正一・山元宣征・野田正美・阿比留巨人・松尾照男・田中清(2016)西彼半島の甲虫, こがねむし(81):1-152, 長崎昆虫研究会.

田中清(2020)長崎市の異翅半翅類目録(1), こがねむし(85):43-52, 長崎昆虫研究会.

田中清(2023)令和4年度長崎市環境調査報告書、長崎市環境政策課